

## 05 江差追分

### かつて北前船の往来で栄えた江差が育んだ民謡

起こりについては諸説ある中、江戸時代中期以降の1760～1800年代頃に、北前船の船頭が口ずさんでいた信州の馬子唄と謙良(けんりょう)節を融合させたというのが定説となっています。ニシン漁でにぎわう江差特有の風土になじみながら変革を遂げ、現代に伝わる歌詞は約100種類に上ります。1974(昭和49)年には、波をイメージした独特な音階を表す基本譜が完成。国内外に158支部をもつ江差追分会は現在、約3,700人の会員を有し、年齢、国籍を問わずに、伝統芸能の継承を担っています。



問い合わせ先	江差追分会
電話番号	0139-52-5555
FAX番号	0139-52-5544
編成	唄い手、三味線、尺八
出演時間	1ステージ20～30分
出演料	<函館市内で出演の場合>59,720円～(出演料、交通費、保険代など)
備考	※具体的な金額や内容等は応相談。 出演時間や出演料は内容により変動します。



毎年9月第3金土日曜日の3日間にわたって、江差町文化会館(同町茂尻71)で開催される江差追分全国大会。1963(昭和38)年に始まった、民謡の全国大会としては最も歴史が長く、毎年、国内外から約400人の唄い手が出場し、自慢ののどで日本一を目指します。北海道最古の祭りとされる「江差姥神(うばがみ)大神宮渡御祭(とぎよさい)」と並ぶ町の一大イベントで、大会期間中は優勝の行方をめぐる話題で持ちきりとなります。

江差追分について詳しく学ぶことができる江差追分会館(同町中歌町193)。館内には、資料展示のほか、江差追分を習得したい人のために師匠が直接指導してくれる道場があります。また、4月29日～10月31日(全国大会の開催日を除く)は、歴代の大会優勝者らが館内で1日3回の舞台に立ち、生の唄声を披露しています。入館料は、併設する江差山車(やま)会館との共通で、大人500円、小中学高校生250円(15人以上の団体は1割引)。